ところで、気候的極相林に関して「中間温帯林」という新しい考えが提唱されている。これは暖温帯林であるシイ・カシ林と冷温帯林であるブナ林との間に、コナラが「中間温帯林」をつくっているのではないかというものである。この理由はいくつかある。阿武隈山地下部に見られるイヌブナ林も比較的傾斜の急なところに成立しており、地形的な極相林であると考えられること。コナラは、春になって新しい葉を広げたあとにも芽を残し、霜害などで最初の葉が死んでも次の葉を広げることができる機構をもっていることなどである。コナラは二次林を構成する代表的な樹種であるが、猪苗代湖周辺にはこの大木を含む林分が見られ、気候的極相林としてのコナラ林の成立を裏づけている。

五十人山と阿武隈高原中部県立自然公園

五十人山は、双葉郡葛尾村と田村郡都路村との境に位置する標高883.1mの山である。山とはいえ決して高くはなく、周囲には同じような高さの山が連なり、全体としてなだらかな丘陵地帯となっている。阿武隈山地全体が比較的起源が古く、風化や浸食を受けて準平原となっているためである。阿武隈高原中部県立自然公園は、五十人山のほか、アカシデやケヤキを混じえたモミ林がうっそうと茂る高瀬川渓谷、1,000mを越す日山や大滝根山、モリアオガエルの繁殖地で有名な平伏沼、仙台平の石灰岩地帯などいくつかの地域に分けられている。また、あぶくま洞や天然記念物の入水鐘乳洞には、毎年多くの観光客が訪れる。

ハクウンボク（エゴノキ科）
6月上旬に純白の花を咲かせる。

五十人山の植物

葛尾村は、福島県内有数の馬産地となっており、かつての軍馬や農耕馬飼育の伝統が現在の競走馬の飼育に生かされている。また、都路村とともに、十数年前までは養蚕もさかんに行なわれていたが、たび重なる春先の霜害と手不足のために畜産や葉タバ